



<提供会員 A 様の声>

今回、介護サポートの依頼にワクワクしながらお伺いしました。
当日初対面の退院間もない依頼者様のお母さまで、大変気さくなお話し上手な方で、とても楽しいサポートのお仕事をさせていただきました。
仕事の内容は、希望される昼食と夕食を作ることで、75個の餃子作りと、農家さんからいただいたインゲンを使い、“胡麻和え”をおしゃべりしながら作りました。時折、味見をしていただくと「おいしい!」とお母様は、喜んでくれました。そんな会話をしながらの楽しい初仕事でした。
この介護サポートは、肩ひじを張らず、時間にピリピリすることなく、家族の一員に入れてもらったような取り組みでした。このような楽しみながらお手伝いできる、優しい介護サポートと思うと、提供会員になれたことに感謝です。



<提供会員 O 様の声>

私は、一昨年春ごろ、当大学・同病院が「ファミリーサポート事業」に新分野の「介護サポート活動」を発足させることで、以後数回の講習会を経て「介護サポート会員」に認定されました。
そこで4月中旬に依頼者、被介護者、提供会員（介護サポーター）並びに事務局員の三者面談がおこなわれ、*サポートの流れの確認と合意事項を取り決めました。
同下旬には初依頼があり、診察日に病院の玄関前の椅子席で合流し、朝の挨拶を交わしてから、初日の介護サポートが始まりました。車椅子にて受け付けの窓口で手続きを済ませ、車椅子の徐行には細心の注意を払います。診察の待ち時間の合間で、家族のことや日常ささやかなこと、差しさわりのない範囲での会話をしながら進めました。
ただこれらの幾ばくかの会話のなかで、相互間の緊張や遠慮感が少しずつ薄れ、また同年代といった感覚もあり、徐々にコミュニケーションがスムーズとなり、今日まで6回目の付き添い活動を無事継続することができました。
提供会員の私としては、依頼会員の家族の方々に、特にご異存がなくご要望があれば、これからも喜んでお受けしたいと思っています。

<提供会員 C 様の声>

初めての介護サポートに寄せて
まずは、提供会員として事前打ち合わせをする事になりました。ご本人がいらっしゃらないので、ご家族のお話を伺い援助活動を進めていきました。そして当日、緊張ドキドキ、ワクワクでお約束の時間、ご本人との初対面、明るくて気さくな笑顔でのハキハキされた対応「えっ」と戸惑う中、早速、今ご本人が何を望まれているのか、お話しを伺いながらのサポート開始です。普段意識することのない早く丁寧に洗濯物を干す。次に用意して下さったレシピ本を見ながらの料理作りで、1日目終了。そして2日目「料理が美味しかった」との感想に、嬉しくその気になり、また違った料理に挑戦です。次に取り掛かったのがお掃除、不思議と疲れることなく終了です。
「どうぞお元気で、ありがとうございました。」と心地良さを残るサポートになりました。

イベント情報

提供会員さん向け スキルアップ研修会

- 日時：11月27日（水） 10:00~12:30（9:30 受付）
 - 場所：東京女子医科大学・総合研究棟3階302会議室
 - テーマ：事例検討で学ぶ「ちょっと介護の実際」
～マッチング～事前打ち合わせ～支援～
実践から学ぶ：支援経験者から活動体験談を聞く（茶話会形式で和んだ形で）
- ご参加お待ちしております。



東京女子医科大学・介護サポート（面談室）

●受付時間：月・火・木曜日 9:00~17:00 直通☎:03-5312-5206 fax:03-5312-5207



介護サポート
ホームページはこちら

介護サポート通信

vol.03

発行：東京女子医科大学・介護サポート（委託：NPO法人子育てネットワーク・ピッコロ）
〒162-8666 東京都新宿区河田町8-1 東京女子医科大学 巴女子学生会館3階介護サポート
☎03-5312-5206 fax 03-5312-5207

10月1日 発行

2024

「介護漫談」開催される

講談師 田辺鶴英氏講演会

「介護について楽しく学ぼう!!」



田辺鶴英氏

6月10日(日)ホテルローズガーデン新宿にて講談師田辺鶴英さんの講演会を開催しました。田辺さんは母親、義父、夫など5人の介護をし、自身の体験や経験に基づいた介護の行い方について誰もが他の人の手を借りながら乗り越えて行くことの大切さを講談の形で明るく、楽しくお話をいただきました。講演会には30名もの多くの方に参加いただき、その後参加者との相談会を開催いたしました。



熱心に聞き入る参加者



相談会の様子



アンケート結果をご報告いたします。

21名の方にご回答いただきました。
・大満足16名 満足4名 未記入1名

<感想>

- 実際に長年ご経験されていらした方の本音、毒舌、ユーモア、愛、特にビデオでのやり取りは、とっても参考になりました。
- 介護のイメージは向き合い方ひとつだと気付かせて頂きました。
- 映像での介護の紹介は驚きました。介護は大変という中で、全くの違った視点、捉え方、対応が新鮮でした。介護で悩んでいる方に知ってもらいたいと思いました。
- 私は高齢相談窓口でケアマネジャーしております。楽しい反面、とても辛い事、今でいうカスハラを受ける事もありますが、今日のお話を聴いて楽しく仕事が出来そうです。今日は、最高のお話しありがとうございました。
- 「終末期にあたり、介護職に求める事」との質問に“いつも通りに接して欲しい”が印象的でした。

第4回提供会員講習会開催報告

令和6年6月20日(木)・27日(木)東京女子医科大学 総合研究棟302会議室をお借りして開講されました。

講師に社会福祉法人・福音会 元理事長の奈良高志先生をお呼びし

1日目：午前「福祉の制度とサービス」について

2日目：午前「利用者の理解」について

講習会では資料配布及びスクリーン投影にてご教示を頂きました。

また、傾聴の部分では、ロールプレイも取り入れ実践形式で学びました。

2日目：午後「福祉用具への理解」については、車いすの操作方法をはじめ2人ひと組になり手引きによる“寄り添い型の介助方法”の実技を学びました。

受講者の感想

- ・ より具体的に説明されて、とても分かりやすかった。
- ・ 支援の基本視点、対象者を理解するために大切なことが理解できました。
- ・ 非言語コミュニケーションを普段から心掛けたい
- ・ 高齢者の特質、認知症の理解を学び認知症の予防(フレイル)の大切さを学びました。
- ・ 親の介護をしていて改めて確認できた事、初めて知る事が多くあり勉強になりました。
- ・ 先生のお話はとても聞きやすく、分かりやすくてもっと広い分野のお話しもきいてみたいになりました。

提供会員数は7名増え延べ22名となりました。

“困ったときはお互い様” 『ちょこっと介護見守り支援』

介護サポート・援助内容について

- ◎ 食事の準備や後片付け
- ◎ 部屋の清掃や衣類の片づけ
- ◎ 通院時や買い物時の付き添い
- ◎ 病院等への薬の受け取り・受付予約 ほか

※介護保険適用外・身体介護は除く

こんなことを
応援します。



介護サポート・ちょこっと介護・見守り支援

4月からの相互援助活動に関わってくださった方のインタビューをしました。

<依頼会員 M様の声>

私が女子医大の介護サポートのシステムを知ったのは、大学から職員に配布されたガイドブック『介護ロードの歩き方』がきっかけでした。ゆくゆく母の介護が必要になるだろうと思っていたところ、女性医療人キャリア形成センターからお知らせがあり、介護講演会や動画を見る機会がありました。そしてそれらを通して私が学んだことは、「どうやら頼れるものは頼って早めに動いたほうがいいらしい。」ということでした。

私には70代後半の母がおり、月1回は女子医大病院に通院していますが、しかし、近所のスーパーや駅で歩けなくなってしゃがみこんだり、転倒したりするが増えてきました。介護保険を申請すると、母は「要支援2」と認定されました。これでは一人で外出させられません。

病院の付き添い・お迎えについては女子医大の介護サポート「ちょこっと介護見守り支援」に相談したところ、アドバイザーさんより提供会員を紹介してもらうことができ、初顔合わせの時には、アドバイザーさんも同席の上システムの説明や確認をしっかりとしていただきました。それ以降母の受診時には毎回提供会員さんに付き添い・お迎えをお願いしております。

母は、提供会員さんとの会話が、楽しいようです。私がバタバタと時間に追われながら付き添いをしていても、母は私に気兼ねします。ですから、介護サポート利用は私と母にとってお互い良い選択であったと思います。

また、今回我が家は、病院の付き添い・お迎えから始めたので、母も家族以外に頼って手伝ってもらおうということを受け入れやすかったと思います。

さらに、この段階で手助けを得られたことで、これから起こるシビアな状況を少しでも先送りできたのではないのでしょうか。

今後、さらに周りに助けを求めるが増えていくと思いますが、“頼れる場所・手札”があるのは心強い限りです。

今後も頼れるものは頼って、早めに動いていこうと思います。



<依頼会員 B様の声>

東京女子医科大学介護サポートを利用して

この度、80歳を迎えた一人暮らしの母親が人工肩関節の手術を受けることとなり、お世話になりました。利き腕の手術であったため、果たして今まで普通に出来ていた日常の家事などがどの程度出来るのかどうか、退院にあたり本人も非常に不安を抱えていました。家事は毎日のことであり、手術前に介護認定を受けていた介護保険サービスだけでは到底やりくりできない状況でした。

そんな中、東京女子医科大学介護サポート担当者の方が親身に相談に乗ってくださり、何人かの提供会員に声をかけて毎日絶え間ないサポートを受けられる体制を作ってくださいました。提供会員それぞれの方にはそれぞれの得意分野があり、食事が得意な方や掃除が得意な方、など非常に多彩で、全員が一堂に会してどのようなスケジュールで誰が何をするか決める時も、各提供会員の個人の特性に合った役割分担と可能な頻度で一週間の予定を立ててくださり毎日のサポートが充実していました。母も、「今日はだれだれさんのお料理が食べれる日だわ」、「今日はお掃除で綺麗になって嬉しいわ」、と曜日ごとに提供会員の方がいらっしゃるのを楽しみにしている様子でした。おかげさまで、その後母も順調に回復し自分の出来る範囲も分かってきて、無事に自分の日常生活に戻ることが出来ました。何か困ったときにはぜひまたお世話になりたいと思います。ありがとうございました。